

## 令和八年度 始業式 校長講話

おはようございます。

こうして一年生、二年生、三年生、全校生徒が揃って新しい一年をスタートできることを、心から嬉しく思います。まずは簡単に自己紹介をさせてください。この四月に校長として田辺中学校に着任しました、古関 龍太郎といます。私はこれまで、「どうすれば学校で皆さんがより良く学べるか」を考え、学校現場を支える仕事をしてきました。校長という立場ではありますが、この田辺中学校のことは、今まさに地域の皆さんや先生方から教わっている真っ最中の「一年生」です。廊下で見かけたら、ぜひ皆さんの「好き」なことや、学校の面白いところを教えてください。

さて、田辺中学校が掲げる「めざす生徒像」には、「自ら学び、創造する生徒」「元気でたくましい生徒」「思いやりのある生徒」の三つがあります。これらを一言で言えば、それは皆さんの内側に「確かな『生き抜く力』を育むこと」に他なりません。

互いの違いを認め合い、自ら問いを立てて新しいものを創り出し、失敗しても何度でも立ち上がる。そんな、しなやかで力強いエネルギーに満ちた学校を、皆さんと共に創りあげたいと願っています。

その「生きる力」を育むために、私が皆さんに最も大切にしてほしいこと。入学式でも伝えましたが、「自分の『好き』を育み、『得意』を伸ばす」ということです。なぜ、校長先生がこれほどまでに「好き」や「得意」にこだわるのか。それは、人が心から「面白い！」「もっとやってみたい！」とワクワクする瞬間こそが、最も自分を成長させ、自分を好きになれる瞬間だからです。

二年生、三年生の皆さんは、これまでの学校生活で、自分なりの「好き」の種を見つけてきたでしょうか。部活動でも、教科の学びでも、あるいは行事の運営や、誰かをサポートすることでも構いません。「好き」という気持ちは、壁にぶつかったときに自分を支える「根っこ」になります。そして、その「好き」を磨いて「得意」に変えていくプロセスこそが、皆さんの自信となり、将来、誰かの役に立つための「武器」になるのです。

「得意なことが何もない」と不安に思う人がいるかもしれません。でも、安心してください。得意なこととは、最初から持っている才能だけをさすものではありません。周りと比べる必要もありません。昨日の自分より、ほんの少しだけ夢中になれた。その「過程」そのものに価値があります。この田辺中学校を、結果だけを追い求める場所ではなく、皆さんがそれぞれの「好き」を安心して試し、失敗し、何度でも挑戦できる場所にしていきましょう。

皆さんは、田辺中学校の80年という歴史のバトンを受け取った当事者です。特に上級生の皆さんの背中は、新入生にとっての「田辺中学校の正解」になります。皆さんが自分の「好き」を堂々と語り、生き生きと活動する姿を見せてくれること。それこそが、この学校の伝統を未来へつなぐ、何よりの力になります。

田辺中学校一年生の私も、皆さんの「好き」が爆発し、「得意」が輝く瞬間をたくさん見つけに行きます。今日から始まる一年間、自分だけの輝きを磨き、最高の田辺中学校を創っていきましょう。以上で、校長先生の話が終わります。